

表妙義 ～妙義中間道+α～ 2005.7.16

メンバー

会計

項目	金額
→(JR)→松井田駅(往復代)	¥2,210
松井田駅→(タクシー)→石門入口	¥3,900
もみじの湯→(タクシー)→松井田駅	¥2,180
松井田駅→(JR)→	¥2,210
もみじの湯(温泉)	¥ 500
昼食	各自
合計	

食料

7/16B：各自(電車内にて)

7/16L：おにぎり3個、きゅうり、行動食(羊羹、ぱかうけせんべい他)、飲み物(各自)

行程表

7/16(±)

石門入口 → 第四石門(855m) → 大砲岩 → あずまや → タルワキ沢の分岐(710m)

→(上級コース)→ 鎖場手前(休憩ポイント) → タルワキ沢のコル → 相馬岳(1,110m)
12:10/12:15 12:37 12:50/13:00

→ タルワキ沢のコル → 鎖場手前(昼休憩) → タルワキ沢の分岐 → 第二見晴
13:10 13:30/14:05 14:25 14:40

→ 第一見晴 → 妙義神社(420m) → もみじの湯
15:00 15:15 15:35

【步行時間:5h15m】

記録

6:04 上野発高崎線に乗車。高崎にて信越本線に乗り換えて…。

8:25 松井田駅着。タクシーを呼ぶ。朝から今にも雨が降りそうな曇り。車中から見える景色も霧が目立っていた。

8:50 石門入口出発。歩き始めはある程度整備されたルートに登る。途中の分岐にてハードな「石門めぐりコース」とその迂回路を選択することになるが、迷わず石門めぐりコースへ。そして、その先に待っていたのが、「かにのよこばい」、「かにのたてばい」等と名づけられた鎖場が数箇所。高さ 20m 以上はあるのではないと思われる長丁場の鎖場。さおりさん、相当汗を噴出しながらも無事に通過。上級者へのステップを確実にこなす!!

9:20 第四石門。第四石門は大きな岩をくりぬいたよう…(!?)。自然の奇勝には目を見張る。ここで休憩一本。誰にも会わず貸しきり状態!!

9:40 第四石門発。本ルートをはずれた「大砲岩」までも、数箇所の鎖場はあるが、登りければ一気に空が近くなる。晴れていれば大眺望間違いなし!!（実際は白くて何も見えず…。）

10:00 大砲岩発。これより中間道「関東ふれあいの道」。道は整備され、比較的なだらかな下りが続く。

10:55 あずまや着。休憩。

11:10 あずまや発。

11:40 タルワキ沢の分岐。一見見過ごしそうな分岐。意を決して上級者コースへ進む。ここからは関東ふれあいの道に比べると、道もはっきりせず、しかも急登。草やぶを掻き分けながら進む。

12:10 休憩。ずっと急登が続いていたから、ちょっとした休憩ポイントだった。

12:15 その後鎖場にて、さおりさん待機。確かに面倒な鎖場が 2 連続である。これよりヒメ、単

独にて頂上を目指す。ルートが目印であるペンキが所々にあるが、それでも何度もルートはずしては、正規のルートに戻って、の繰り返しだった。また、このルートで亡くなられた方のレリーフが2箇所にあった。故人の冥福を祈るとともに、自分自身の緊張が高まった。

この途中。ヒルに血を吸われていることに気づく…。そしてジャージには、繊維と繊維の間から逃げていこうとする(もしくは新たに潜り込もうとする!?)ヒルを見てしまう…。あー、すっかり忘れていたあの悪夢…。妙義、恐るべし!!

- 12:37 タルワキ沢のコル、通過。ここからは、稜線上に出たとはいえ、木々の中を進む、ごく普通のルート。ルートが目印も所々にあり、踏み跡もしっかり残されていた。
- 12:50 相馬岳登頂。天気はよくないものの、雲海の中から裏妙義が顔を出していた。岩肌が聳え立つ妙義は、幻想的であった。
- 13:00 相馬岳発。
- 13:11 タルワキ沢のコル、通過。
- 13:30 休憩ポイントにてさおりさんと合流。昼休憩。リコーダータイム(なぜだか森の中にとっても響き渡った)。そして、さおりさんお手製のおにぎり(めんたいこ&鮭)ときゅうりをいただく。とっても美味しかった。満腹になったところで、雨が降り出す…。
- 14:05 レインウェアを着て出発
- 14:25 タルワキ沢の分岐、通過。再び中間道。この道なら、さおりさんもお茶の子サイサイ。
- 14:40 第二見晴。妙義の南方がよく見える。
- 15:00 第一見晴。ここに来て、今さら晴れ出す…。遠方の道の駅や松井田の街が見える。
- 15:15 妙義神社、通過。石造りの階段が、古代からの信仰を語りついでいるようだった。
- 15:35 もみじの湯。露天あり。ゆっくり、のんびり、と思いきや、ヒルに血を吸われていたところから血が止まらないことに気づいてからは、のんびりもしていられなくなった…。また、さおりさんは、右足からヒルに血を吸われてしまった様子…。ヒルめ、よくもさおりさんの血を…!!
- 17:10 もみじの湯発。タクシーに乗車すると、朝と同じ運ちゃん。おお!
- 17:20 松井田駅着
- 17:32 松井田駅発、高崎にて高崎線に乗り換え、ヒメ一人でりんごを食べまくり、その後爆睡。目が覚めてからは、次の山のことをいろいろと話したり、地図を広げたり…。
- 19:45 上野着。駅構内のさぬきうどん屋にて、打ち上げ m(^o^)m さっぱり感で満腹!!
そして、解散。お疲れ様でした!!

表妙義 2005.7.16 山行記録

表妙義。岩場や鎖場の険しさから、難易度はかなり高いと言われていたコースだったが、今回はその中でも「関東ふれあいの道」として親しまれている表妙義中間道を中心にコースを選んでみた。実際、悪天候から予定していた稜線上のルートはカットしたが、それでもかなりバリエーションのある道を歩くことができた。

石門付近。いきなり大きな鎖場の連続には、もしやさおりさんをとんでもない所に連れてきてしまったかもしれない、と悔やみもしたが、その懸念とは裏腹にさおりさんも岩をつかみながら、そして鎖を使いこなしながら無事に通過することができ、ひと安心。

タルワキの沢の分岐からは上級コースと呼ばれるルートに足を踏み入れる。途中からはさおりさんを休憩ポイントに待たせてしまう、という結果となり、とても申し訳なく思いながらも、相馬岳には無事登頂。曇り空の中、雲海の中に連ねる妙義の山々がとても幻想的だった。

しかし、山頂で一息ついた後は、すぐにでも休憩ポイントに戻りたくて仕方がなかった。やはり誰かを待たせてしまう、というのはとてつもなく不安だし、万一自分の身に何かが起こったときは、という思いに駆られると、足早になってしまう。稜線から中間道への道は急登で不明瞭な箇所が多く、目印のペンキには本当に助けられた。そして、さおりさんの声が聞こえたときは、とにかくほっとした。

そして、今回一番の衝撃的な出来事は、もう二度と会わないと心に誓った彼に再会し、知らぬ間にへその横から血を吸われていたこと…。彼とは、そう、ヒル…。

曇り時々雨、という天候のためか、ほとんど他の登山客には会わず、静かな山行を楽しめた。そして、さおりさんと二人きりの初山行。さおりさんの前向きな姿勢や気遣いを、所々に垣間見ることができた。今後とも、どうぞよろしく願います。